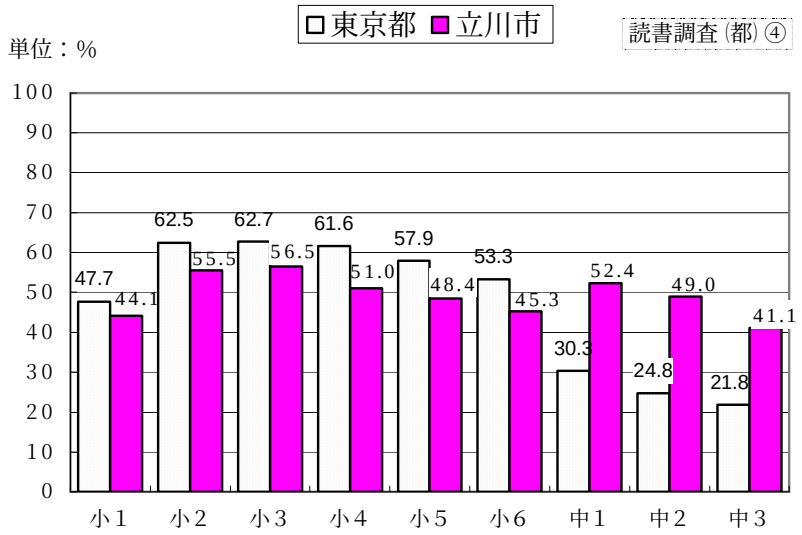
学校図書館の利用状況



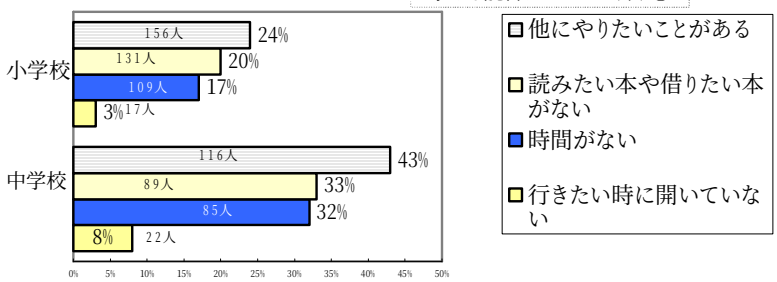
読書調査（都）④

学校図書館の利用は、小学生ではいずれも都全体を下回り、中学校では都全体より大きく上回っている。
未利用の状況はその逆である。
「子ども読書アンケート（市）」では学校図書館の利用について頻度とその理由についてたずねているが、中学２年生で学校図書館に「ほとんど行かない」と答えているのは 63%となっており調査結果に矛盾がある。
都の調査
　学校図書館で本を読んだり借りたりした　はい 49%　いいえ 51%
市の調査
　ほとんど行かない　63%

利用しにくい理由では、ともに「他にやりたいことがある」小学校 24%・中学校 43%と高い割合を示しているが、中学生では「読みたい本や借りたい本がない」33%「時間がない」32%となっている。「行きたい時間に開いていない」は小学生 3%中学生 8%だが、実際に常時学校図書館を開けている小学校に対し、中学校では基本的には施錠されているため学校生活上、自由に使える場所と位置づいていないことが伺える。

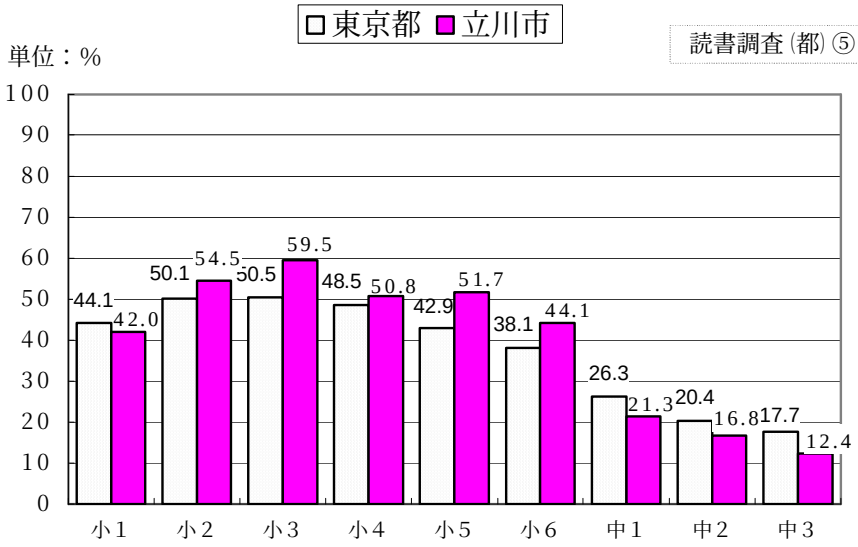
学校図書館の利用しにくい理由

子ども読書アンケート（市）③



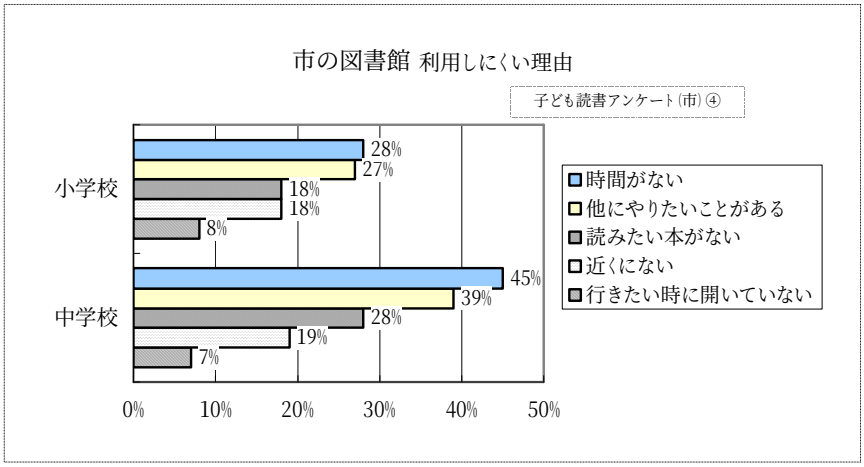
●公共図書館の利用

公共図書館の利用状況



読書調査（都）⑤

「読書調査（都）」での公共図書館の利用について見ると、小学生の５割から６割、中学生では７割から８割が利用していないことがわかる。
　立川市の子どもたちについて見てみると、小学生は１年生を除く２年生から６年生までは比較的よく利用しているものの、中学生はいずれも都全体の利用率を下回り、およそ８割から９割近くが利用しないことがわかる。「子ども読書アンケート（市）」でも小学生の 45%中学生の 71%が「ほとんど行かない」10%が「月１回」と答え、都の調査と概ね一致している。



利用しにくい理由としては、ともに「時間がないから」小学生 28%・中学生 45%「他にやりたいことがある」小学生 27%・中学生 39%と全体で高い比率となっている。

●市の図書館　利用しにくい理由

子ども読書アンケート(市)⑤

注・南富士見小学校と多摩川小学校は、統合して平成１６年度に新生小学校になっている。

小学校（複数回答）	第一小学校	第二小学校	第三小学校	第四小学校	第五小学校	第六小学校	第七小学校	第八小学校	第九小学校	第十小学校	けやき台小学校	西砂小学校	南富士見小学	南砂小学校	若葉小学校	幸小学校	松中小学校	大山小学校	柏小学校	多摩川小学校	上砂川小学校	小学校計	%
対象児童数	28	40	27	28	33	30	32	35	24	32	20	37	30	26	37	33	32	38	33	25	34	654	
行きたい時に開いていない	3	3	1	0	2	6	1	2	2	2	3	4	0	3	3	4	4	1	5	2	0	51	8%
近くにない	7	2	4	4	4	11	2	6	1	2	2	6	1	9	8	5	7	7	10	1	19	118	18%
読みたい本がない	4	5	3	5	8	8	3	8	2	2	3	10	2	5	8	12	9	7	5	3	3	115	18%
時間がない	11	4	5	9	13	11	7	8	5	8	4	17	2	8	16	12	15	5	10	5	11	186	28%
他にやりたいことがある	4	5	7	7	9	11	7	7	4	5	5	21	6	7	17	13	10	10	8	6	6	175	27%

理由の中で「近くにない」は上砂川・第六・南砂小学校などが高い数値となっている。子どもにとっての魅力や使いやすさからくる心理的な感覚もあり単純に距離だけを指しているとは言えないが、１㌔圏内に図書館がない地域であり、小学生の行動範囲と図書館配置の現状との関連をうかがい知ることができる。

子ども読書アンケート(市)⑥

中学校（複数回答）	第一中学校	第二中学校	第三中学校	第四中学校	第五中学校	第六中学校	第七中学校	第八中学校	第九中学校	中学校計	%
対象生徒数	31	31	35	29	34	29	28	24	28	269	
行きたい時に開いていない	3	1	3	3	2	4	1	0	2	19	7%
近くにない	7	5	10	6	7	5	10	1	1	52	19%
読みたい本がない	9	9	10	7	13	6	5	10	6	77	29%
時間がない	18	15	12	20	17	10	12	6	11	121	45%
他にやりたいことがある	15	16	14	10	10	8	8	10	13	104	39%

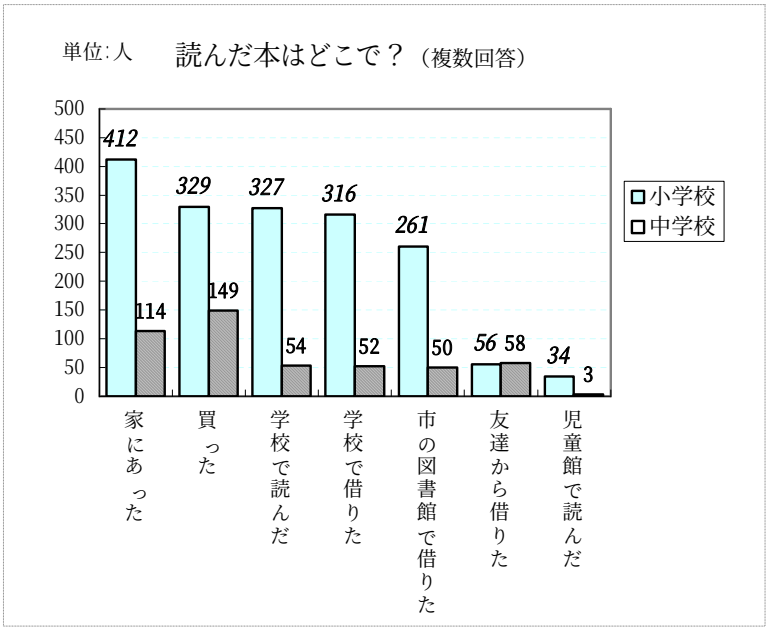
立川市図書館の平成 15 年度利用統計によれば、０歳から１２歳までの人口 19,310 人に対しおよそ 47%の 9,103 人が図書館の利用カードを持ち、年間ひとりあたり９回図書館を利用し、合わせて 32.4 冊の本を借りている。中学生を含む１３歳から１８歳までの世代は人口に対し 86.2%が図書館カードを持っているものの、１年間での利用回数は 3.6 回、9.9 冊の利用に止まっている。

子ども読書アンケート(市)⑦

●読む本の入手方法

本の入手方法について見ると、小学生では「家にあった」というものが一番となり、中学生では「買った」が一番、ついで「学校で読んだ」「学校で借りた」となっている。

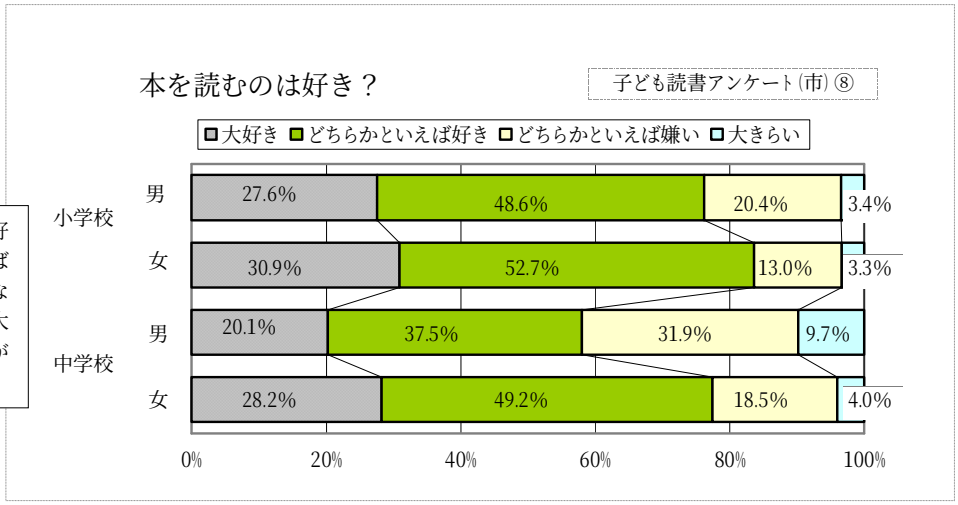
小学生の対象児童に対する比率で見ると「家にあった」63%「買った」「学校で読んだ」はともに 50%「学校で借りた」48%「市の図書館で借りた」というのも 40%となる。



●読書に対する意識

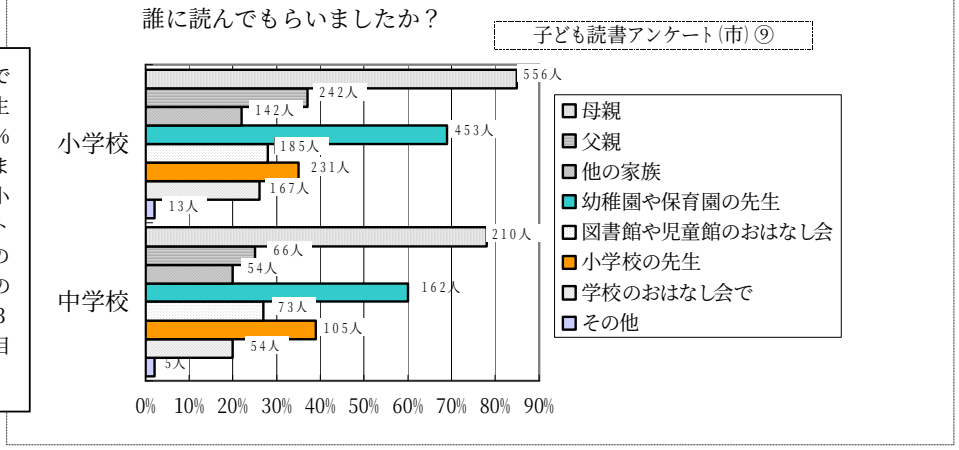
男女の割合

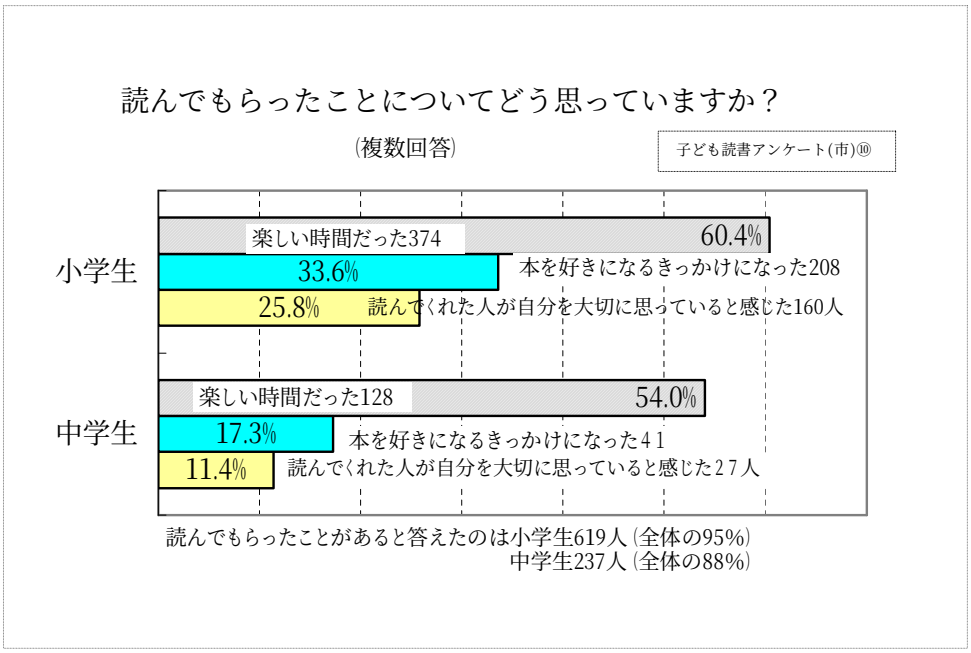
中学生になると「大好き」「どちらかといえば好き」の割合が少なくなるが、男子の方がより大きく減少しているのがわかる。



●読み聞かせと読書

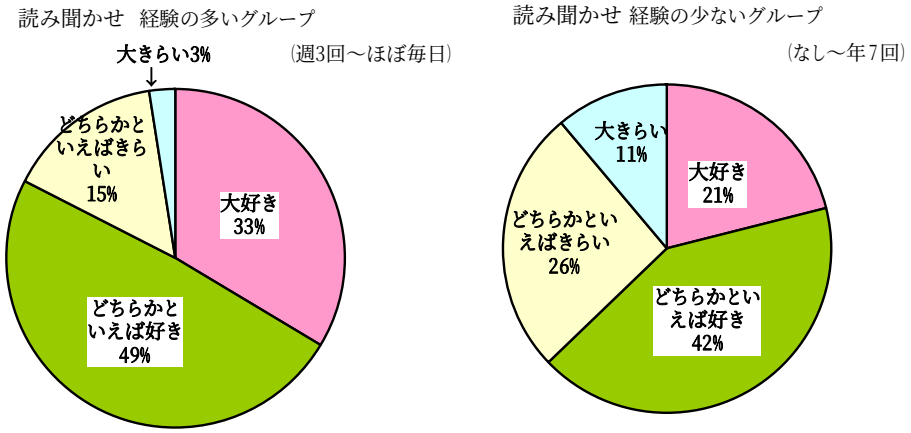
「小さいころ人に絵本を読んでもらったことはある」のが小学生の 95%（619 人）、中学生の 88%（237 人）、「誰に読んでもらいましたか？」については「母親」（小学生 85%・中学生の 78%）がトップ、ついで「幼稚園や保育園の先生」（小学生 69%・中学生の 60%）で、「父親」は小学生で 3 番目（22%）中学生は 4 番目（20%）となっている。





▼本を読むのは好き？

子ども読書アンケート(市)⑪



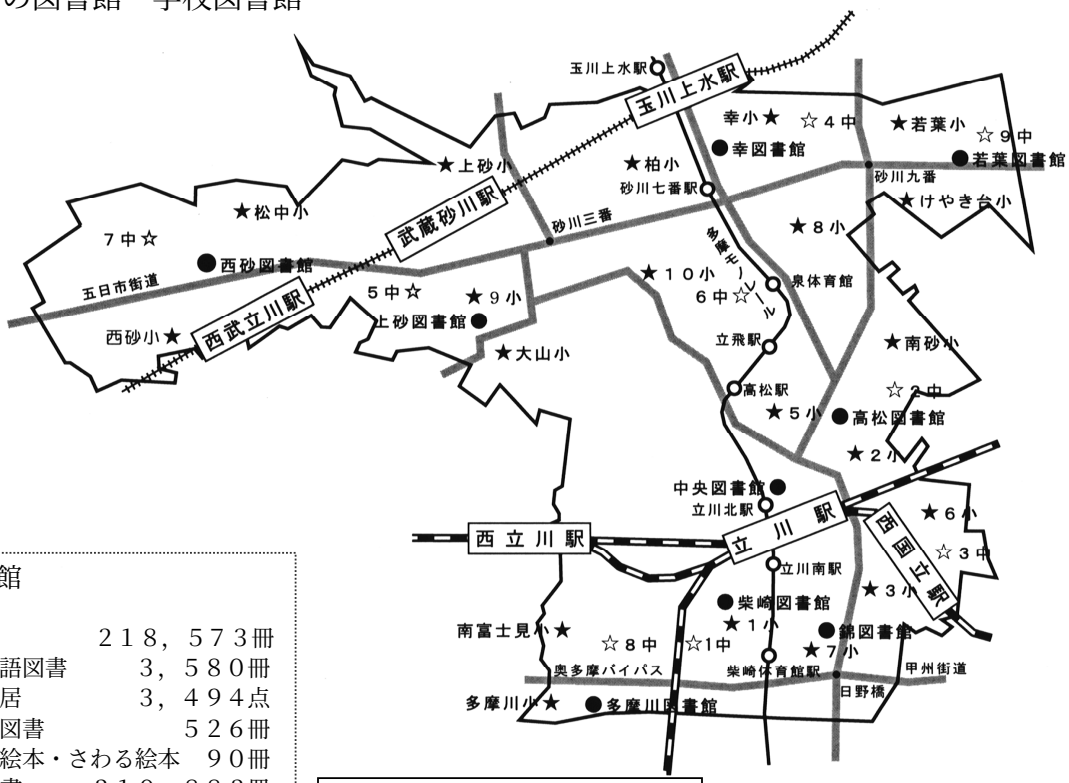
読み聞かせをしてもらった頻度と読書に対する意識「本を読むのが好きかどうか」の関係では、「週３回」から「ほぼ毎日」のグループは、「大好き」「どちらかといえば好き」をあわせた数値が82%であるのに対し、「読んでもらったことがない」から「年７回」までのグループは63%、「大きらい」が11%と大きいことがわかった。「本を読むのがきらい」という意識は、１冊も本を読まなかったり、学校や市の図書館を利用しないことにつながるものだが、幼いころからの本との出会いやふれあいが楽しいものであればこうした意識にも影響があると考えられる。

「読書調査（都）」　「児童・生徒の読書の状況に関する調査」平成１５年５月に東京都が実施。
立川市の調査対象は、小学校２１校、中学校９校。

「子ども読書アンケート（市）」　「読書に関するアンケート調査（児童・生徒対象）」
平成１５年９月立川市で実施。
小学校２１校の５年生、中学校９校の２年生任意の１クラスが対象。
実数小学生６５４人、中学生２９６人

＊なお、調査の「本」は、雑誌・コミック（マンガ）を除く。また、授業中の利用を除く。

●立川市の図書館・学校図書館



立川市図書館

蔵書冊数

児童書	２１８，５７３冊
内　外国語図書	３，５８０冊
紙芝居	３，４９４点
点字図書	５２６冊
布の絵本・さわる絵本	９０冊
図書	２１０，８８３冊
YA分類資料	５９，５０６冊

児童書の貸出冊数

貸出冊数	**４４４，３４７冊**
中央図書館	９７，６８９冊
柴崎図書館	２０，２７７冊
上砂図書館	７８，３６２冊
幸図書館	３９，４５９冊
西砂図書館	４７，３６７冊
多摩川図書館	３３，７１８冊
高松図書館	３５，４５０冊
錦図書館	４２，２１１冊
若葉図書館	４９，８１４冊

貸出冊数の推移

平成１５年度	４４４，３４７冊
平成１４年度	４０６，０９５冊
平成１３年度	３６８，４０８冊

《平成 15 年度統計より》

学校図書館(小学校)　蔵書冊数

合計	**３２０，６０３冊**
第一小学校	２３，１２６冊
第二小学校	９，２８３冊
第三小学校	１６，８３０冊
第四小学校	１０，７１１冊
第五小学校	２５，９９５冊
第六小学校	１６，６９５冊
第七小学校	６，６９１冊
第八小学校	１９，１８４冊
第九小学校	１３，２９１冊
第十小学校	１１，８１３冊
けやき台小学校	９，４９１冊
西砂小学校	９，２１５冊
南富士見小学校	１８，９７９冊
南砂小学校	１５，５４３冊
若葉小学校	２０，７２４冊
幸小学校	１３，４１４冊
松中小学校	２６，５４３冊
大山小学校	１６，５８１冊
柏小学校	１１，９７０冊
多摩川小学校	１１，６２６冊
上砂小学校	１２，８９９冊

学校図書館(中学校)蔵書冊数

合計	**２２４，９０５冊**
第一中学校	３９，１０３冊
第二中学校	２９，９５２冊
第三中学校	２４，９３０冊
第四中学校	２２，００５冊
第五中学校	２７，６２１冊
第六中学校	１７，２１６冊
第七中学校	２５，７８６冊
第八中学校	１７，１９７冊
第九中学校	２１，０９５冊

《「文部科学省･学校図書館の現状に関する調査」平成１５年９月実施」より》
＊南富士見小学校と多摩川小学校は、統合して平成 16 年度に新生小学校になっている。

＊地図の上では、図書館は●、小学校は★、中学校は☆で表示
＊数値は、図書館は「平成１５年度統計」より、学校図書館は平成 15 年９月「文部科学省･学校図書館の現状に関する調査」より